

証券コード 8072
2024年6月10日

株 主 各 位

東京都千代田区神田猿樂町一丁目5番15号

日本出版貿易株式会社

取締役社長 綾 森 豊 彦

第83回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

さて、当社第83回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご案内申しあげます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の以下の各ウェブサイトに掲載しておりますので、いずれかのウェブサイトアクセスのうえ、ご確認くださいませようお願い申しあげます。

【当社ウェブサイト】

<https://www.jptco.co.jp/ir/meeting>



【株主総会資料掲載ウェブサイト】

<https://d.sokai.jp/8072/teiiji/>



なお、当日のご出席に代えて、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2024年6月24日（月曜日）午後5時30分までに到着するようご返送くださいますようお願い申しあげます。

敬 具

記

1. 日 時 2024年6月25日（火曜日）午前10時
2. 場 所 東京都千代田区神田神保町1-32 日本出版クラブ 4階
（末尾の会場ご案内図をご参照ください。）
3. 目的事項
- 報告事項
1. 第83期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第83期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）計算書類報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
- 第2号議案 取締役5名選任の件
- 第3号議案 監査役2名選任の件

4. 招集にあたっての決定事項（議決権行使についてのご案内）

- (1)書面（郵送）により議決権を行使された場合の議決権行使書において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。
- (2)代理人により議決権を行使される場合は、議決権を有する他の株主の方1名を代理人として株主総会にご出席いただけます。ただし、代理権を証明する書面のご提出が必要となりますのでご了承ください。

以上

~~~~~

株主総会にご出席の株主の皆さまへのお土産のご用意はございません。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

当日ご出席の際は、お手数ながら議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。また、議事資料として本冊子をご持参くださいますようお願い申し上げます。

電子提供措置事項に修正が生じた場合は、上記インターネット上の各ウェブサイトにて修正した旨、修正前の事項及び修正後の事項を掲載させていただきます。

# 事業報告

(2023年4月1日から  
2024年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況

### (1) 当事業年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度における我が国経済は、日経平均株価が最高値を更新したものの、消費者物価の上昇に歯止めがかからず、個人消費の持ち直しに足踏みがみられるなど、景気の回復基調は緩やかな状況であります。また、国内では能登半島地震、海外では中国経済の先行き懸念、ウクライナ情勢、中東をめぐる情勢など、経済に与える影響を留意すべき要因が数多くあり、本格的な景気回復にはしばらく時間を要するものと思われま

す。当社グループにおける出版物・雑貨等の輸出事業は、大学図書館向け出版物が堅調に推移したものの、信用不安により出荷停止している販売先の影響が大きいに加え、音楽ソフト、日本語学習書、玩具類の受注も振るわず減収となりました。また、洋書・メディアの輸入事業は、英語学習書が堅調に推移、日本語学習書は好調でありましたが、販売先の政策変更により売上消失したところが大きく、好調を維持してきたK-POPも鈍化し、減収となりました。加えて、海外子会社は、玩具類及び日本語学習書の受注減退が続いておりますが、文具類に関しては新規仕入先の拡大、新規販売先の開拓が進んだことから増収となりました。

利益面では、昨年採算の悪い商品群に対して値上げを実施した効果が未一巡であること、原価率の悪い売上が減少したこと、価格競争の緩和などにより原価率は改善したものの減収の影響が大きく、売上総利益は8百万円の増益となりました。一方で、経費に関しては、減少した要素もあったものの、給与・賞与の引き上げ、新規開拓を目的とした海外出張、展示会への出展費用の増加等の要因により1千4百万円の増加となった結果、営業利益は減益となりました。

営業外損益に大きく影響を与える為替につきましては、前連結会計年度が2千9百万円の為替差益であったのに対し、当連結会計年度は2千9百万円の為替差益となり、ほぼ同額の水準となりました。

特別利益では、継続保有の必要がないと判断した投資有価証券を売却したことにより8百万円の投資有価証券売却益を計上いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高85億5千4百万円（前連結会計年度比21.6%減）、営業利益4億2千5百万円（前連結会計年度比1.3%減）、経常利益4億4千8百万円（前連結会計年度比2.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は3億1千4百万円（前連結会計年度比26.8%増）となりました。

当連結会計年度のセグメントの業績は以下のとおりであります。

#### （出版物・雑貨輸出事業）

大学図書館からの受注は堅調に推移いたしました。主要商材である音楽ソフトはアナログレコードの受注が好調、オリジナルアナログレコード製作や新規開拓にも注力しているものの、信用不安により出荷停止している販売先の影響が大きく、音楽ソフトとしては低調でありました。文具類につきましても、メーカーとのタイアップによる施策は成果を上げておりますが、結果として海外子会社との直接取引が増加、部門としての売上増にはつながっておりません。また、日本語学習書の海賊版の影響も払拭しきれず、減収となりました。

利益面では、昨年度実施した値上げの効果が未一巡であることから原価率は改善、経費についても人員の圧縮を図りましたが、減収の影響が大きく、新規開拓を目的とした海外出張も増加、営業利益は減益となりました。

その結果、当部門の売上高は18億1千7百万円（前連結会計年度比18.0%減）、営業利益は1億5千9百万円（前連結会計年度比7.5%減）となりました。

#### （洋書事業）

最繁忙期に当たる新学期の大学向け英語学習書の受注は堅調に推移いたしました。また、日本語学習書販売は中国本土からの留学生が戻ってきておりませんが、他国からの留学生増により好調に推移、オンライン英会話の生徒数は着実に増加しております。ただ、ネット事業者向けの受注が大きく落ち込んだ影響が大きく、英語塾、法人からの受注が不調、国際交流基金への入札案件も少額、代理店を務める学術雑誌の売上も落ち込み続けていることから、減収となりました。

利益面では、業務の効率化による人件費の圧縮、特に内製化比率の拡大による業務委託費用の圧縮で成果があがり減収ではありましたが、営業利益は増益となりました。

その結果、当部門の売上高は29億7千9百万円（前連結会計年度比10.3%減）、営業利益は8千4百万円（前連結会計年度比1.2%増）となりました。

#### (メディア事業)

代理店商品の受注は極めて好調に推移、オリジナル商品も一定の成果を得ました。しかし、主要商材であるK-POPにつきましては、前事業年度同様好調であったものの、2024年に入り大物新譜の発売が少なく失速いたしました。洋楽の新譜発売の減少にも歯止めがかからず、ネット事業向けや小規模の地方店舗は苦戦、音響関連商品も低迷が続いている中、販売先の政策変更による売上消失の影響が大きく、減収となりました。

利益面では、為替動向を勘案した原価の維持、価格競争の鎮静化、消失した売上は原価率が高かったこと等の要因より原価率が大きく改善、業務効率化による経費減も若干行えましたが、減収の影響が大きく、営業利益は減益となりました。

その結果、当部門の売上高は23億2千8百万円（前連結会計年度比42.5%減）、営業利益は1億5千3百万円（前連結会計年度比5.5%減）となりました。

#### (海外子会社事業)

文具類に関しては、本社との協業により新規取り扱いのメーカー数が増加しており、米国本土を中心として新規顧客の開拓が進むと同時に既存顧客からの受注も堅調に推移したことから大きく増収となりました。対して、日本語学習書販売は海賊版の影響を払拭しきれず低調、玩具類はハワイのマウイ島での火災以降、ハワイでの観光需要が振るわずその影響を受けて受注減、昨年8月にハワイのパールリッジ店を閉店したことによる小売店売上消失の影響が未一巡等のマイナス要因もありましたが、文具の増収効果が大きく、増収となりました。

利益面では、原価率は前年並みを維持、経費は給与・賞与引き上げ及び営業力強化を目的とした人員増により人件費増、販売促進を目的とした展示会出席費用増など、経費増加が大きかったものの、増収効果に加え円安効果もあり営業利益は増加いたしました。

その結果、当部門の売上高は14億2千8百万円（前連結会計年度比10.4%増）、営業利益は1億2千9百万円（前連結会計年度比32.9%増）となりました。

(不動産賃貸事業)

本社でのテナント事業は、賃貸マンション建設に向け建物解体を完了し、建設に着手した状態にあり、売上はありません。

なお、前連結会計年度の当部門の売上高は3千万円、営業利益は4百万円でありました。

② 設備投資の状況

本社ビルの老朽化に伴い、総合的に判断したうえで、建て替えを行い、収益物件として店舗付き共同住宅の建設を開始しております。

③ 資金調達の状況

当社は店舗付き共同住宅の建設のため、シンジケートローン18億円を組成しております。

なお、当連結会計年度における増資あるいは社債発行による資金調達は行っておりません。

④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

該当事項はありません。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分                      | 第80期<br>(2021年3月期) | 第81期<br>(2022年3月期) | 第82期<br>(2023年3月期) | 第83期<br>(当連結会計年度)<br>(2024年3月期) |
|--------------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------------------|
| 売 上 高 (千円)               | 9,493,224          | 10,736,162         | 10,909,090         | 8,554,238                       |
| 経 常 利 益 (千円)             | 234,995            | 453,340            | 458,955            | 448,394                         |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益 (千円) | 157,109            | 94,247             | 248,511            | 314,993                         |
| 1株当たり当期純利益 (円)           | 225.28             | 135.14             | 356.34             | 451.67                          |
| 総 資 産 (千円)               | 6,487,547          | 7,093,094          | 7,193,973          | 7,326,115                       |
| 純 資 産 (千円)               | 1,721,579          | 1,837,040          | 2,134,578          | 2,463,642                       |
| 1株当たり純資産額 (円)            | 2,468.58           | 2,634.13           | 3,060.77           | 3,532.63                        |

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第81期の期首から適用しており、第81期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

### ② 当社の財産及び損益の状況

| 区 分            | 第80期<br>(2021年3月期) | 第81期<br>(2022年3月期) | 第82期<br>(2023年3月期) | 第83期<br>(当期)<br>(2024年3月期) |
|----------------|--------------------|--------------------|--------------------|----------------------------|
| 売 上 高 (千円)     | 9,144,493          | 10,371,853         | 10,203,424         | 7,692,846                  |
| 経 常 利 益 (千円)   | 223,203            | 402,227            | 377,246            | 330,283                    |
| 当 期 純 利 益 (千円) | 155,293            | 42,994             | 203,619            | 236,555                    |
| 1株当たり当期純利益 (円) | 222.68             | 61.65              | 291.97             | 339.20                     |
| 総 資 産 (千円)     | 6,449,173          | 6,942,877          | 6,950,265          | 6,916,248                  |
| 純 資 産 (千円)     | 1,695,000          | 1,708,478          | 1,890,247          | 2,105,310                  |
| 1株当たり純資産額 (円)  | 2,430.47           | 2,449.79           | 2,710.43           | 3,018.81                   |

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第81期の期首から適用しており、第81期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

### (3) 重要な親会社及び子会社の状況

#### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

#### ② 子会社の状況

| 会社名               | 資本金           | 当社の議決権比率   | 主要な事業内容    |
|-------------------|---------------|------------|------------|
| JPT AMERICA, INC. | 千米ドル<br>1,250 | %<br>100.0 | 出版物、雑貨の販売業 |
| JPT EUROPE LTD.   | 千ポンド<br>350   | %<br>100.0 | 出版物、雑貨の販売業 |
| HAKUBUNDO, INC.   | 千米ドル<br>253   | %<br>100.0 | 出版物、雑貨の販売業 |

### (4) 対処すべき課題

当社及び当社グループは、学術専門書、日本語学習書などの各種和書出版物、及び日本製の良質な文具・雑貨を広く世界の大学等の教育機関、小売店舗、ネットショップ等に輸出供給しております。また、輸入事業においては、国内の書店、大学生協、ネット事業者等を対象に海外の優良出版物・語学書の輸入販売、また、ホームセンター、量販店向けには雑貨・出版物を販売する等、わが国の貿易産業界に於いても、教育・文化を中心とした取扱商品は、その優位性を保持しており、今後とも事業拡大に向けた取引先との連携をより深めてまいります。一方で、国内外の昨今における紙媒体（書籍・雑誌）の需要減に加え、モノ消費からコト消費への消費行動の変化や、国内音楽市場の縮小に伴う大型新譜の減少による音楽CDの販売苦戦など、刻々と変化し続ける市場需要と新たな分野に対応する事業展開が今後の課題になっております。

厳しい環境下ではございますが、従来の輸出入事業で培った専門性と国内外の販路、そして当社グループの貴重な経営資源である海外子会社を加え、全てのネットワークを活かした総合戦略を推し進めてまいります。また、オンライン英会話学校へのデジタル教材提供、主要メーカーとの協業を進めている文具・雑貨商品など、当社独自の強みを生かす提案を行うことにより引き続き拡大販売に努めてまいります。

当社の経営理念であります「私たちは文化事業を通じて、国際社会に貢献します」に則り、引き続き堅実な活動を継続して行く所存ですので、株主の皆様方におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

### (5) 主要な事業内容（2024年3月31日現在）

当社グループは、出版物、音響関連商品及び雑貨の輸出入並びに貸室事業を行っております。



(6) 主要な営業所 (2024年3月31日現在)

|     |                   |                    |
|-----|-------------------|--------------------|
| 当 社 |                   | 本 社：東京都千代田区        |
| 子会社 | JPT AMERICA, INC. | California, U.S.A. |
|     | JPT EUROPE LTD.   | London, U.K.       |
|     | HAKUBUNDO, INC.   | Hawaii, U.S.A.     |

(7) 使用人の状況 (2024年3月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

| 事 業 区 分     | 使 用 人 数   | 前連結会計年度末比増減 |
|-------------|-----------|-------------|
| 出版物・雑貨輸出事業  | 14 (17) 名 | 2名増 (1名減)   |
| 洋 書 事 業     | 22 (9) 名  | 1名減 (2名減)   |
| メディア事業      | 16 (24) 名 | 1名減 (1名増)   |
| 不動産賃貸事業     | 1 (－) 名   | － (－)       |
| 海外子会社事業     | 12 (9) 名  | 1名減 (2名減)   |
| 全 社 ( 共 通 ) | 13 (3) 名  | 1名減 (－)     |
| 合計          | 78 (62) 名 | 2名減 (4名減)   |

(注) 上記表中の使用人数は就業員数であり、契約社員、嘱託、出向社員、臨時雇用者は ( ) 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

② 当社の使用人の状況

| 使 用 人 数   | 前事業年度末比増減 | 平 均 年 齢 | 平均勤続年数 |
|-----------|-----------|---------|--------|
| 66 (53) 名 | 1名減 (2名減) | 44.8歳   | 15.9年  |

(注) 上記表中の使用人数は就業員数であり、契約社員、嘱託、出向社員、臨時雇用者は ( ) 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(8) 主要な借入先の状況 (2024年3月31日現在)

| 借 入 先                   | 借 入 額     |
|-------------------------|-----------|
| 株 式 会 社 り そ な 銀 行       | 618,750千円 |
| 株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行     | 468,750千円 |
| 株 式 会 社 三 菱 U F J 銀 行   | 200,000千円 |
| 株 式 会 社 み ず ほ 銀 行       | 50,000千円  |
| 株 式 会 社 商 工 組 合 中 央 金 庫 | 211,600千円 |

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の現況

(1) 株式の状況 (2024年3月31日現在)

- ① 発行可能株式総数 2,400,000株
- ② 発行済株式の総数 700,000株
- ③ 株主数 367名 (前期末比57名減)
- ④ 上位10名の株主

| 株 主 名                   | 持 株 数   | 持 株 比 率 |
|-------------------------|---------|---------|
| 株 式 会 社 ト ー ハ ン         | 1,500百株 | 21.5%   |
| 丸 善 雄 松 堂 株 式 会 社       | 700百株   | 10.0%   |
| 株 式 会 社 講 談 社           | 554百株   | 7.9%    |
| 株 式 会 社 宮 脇 商 事         | 500百株   | 7.1%    |
| 高 山 泰 三                 | 438百株   | 6.2%    |
| 中 林 和 子                 | 344百株   | 4.9%    |
| 株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行     | 240百株   | 3.4%    |
| 日 本 出 版 貿 易 取 引 先 持 株 会 | 203百株   | 2.9%    |
| 岡 三 証 券 株 式 会 社         | 185百株   | 2.6%    |
| 株 式 会 社 宮 脇 書 店         | 148百株   | 2.1%    |

- (注) 1. 持株数は、百株未満を切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は、小数点第2位未満を切り捨てて表示しております。  
3. 持株比率は、自己株式 (2,603株) を控除して計算しております。

(2) 新株予約権の状況

該当事項はありません。

### (3) 会社役員の状況

#### ① 取締役及び監査役の状況 (2024年3月31日現在)

| 地 位     | 氏 名     | 担当及び重要な兼職の状況                     |
|---------|---------|----------------------------------|
| 代表取締役社長 | 綾 森 豊 彦 |                                  |
| 常務取締役   | 近 藤 隆 一 | 事業管理本部担当                         |
| 取 締 役   | 松 並 恒 次 | 商品本部担当                           |
| 取 締 役   | 林 恭 彦   | 営業本部担当                           |
| 取 締 役   | 小 寺 勉   | 株式会社トーハン 執行役員 経営管理本部<br>経理部長     |
| 常勤監査役   | 狩 野 泰 直 |                                  |
| 監 査 役   | 片 岡 義 正 | 片岡義正税理士事務所                       |
| 監 査 役   | 渡 部 弘 之 | 株式会社トーハン 上席執行役員 経営管理本部<br>経営企画部長 |

- (注) 1. 取締役小寺勉氏は、社外取締役であります。  
2. 監査役片岡義正、渡部弘之の2氏は、社外監査役であります。  
3. 監査役片岡義正氏は、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。  
4. 当社は、監査役片岡義正氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

#### ② 事業年度中に退任した監査役

| 氏 名     | 退 任 日      | 退任事由 | 退任時の地位・担当及び重要な兼職の状況 |
|---------|------------|------|---------------------|
| 釜 井 隆 介 | 2023年6月23日 | 任期満了 | 社外監査役               |

#### ③ 取締役の報酬等

##### イ. 役員報酬等の内容の決定に関する方針等

当社は、2021年4月27日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針を決議しております。

取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針の内容は次のとおりです。

##### a. 基本報酬に関する方針

株主総会において承認を得られた報酬等の限度額の範囲内において、各取締役の責任、役割に応じて決定（個人別の報酬の額については取締役会で取締役社長に一任することを決定）

##### b. 業績連動報酬等に関する方針

業績連動報酬等はないため、現時点では方針を定めない。発生した際に改めて決定方針を定めるものとする。

c. 非金銭報酬等に関する方針

非金銭報酬等はないため、現時点では方針を定めない。発生した際に改めて決定方針を定めるものとする。

d. 報酬等の割合に関する方針

現時点では固定報酬等のみであるため、取締役の個人別の報酬等の額全体に対する固定報酬等の額の割合を100%とする。今後業績連動報酬等又は非金銭報酬等発生するには改めて割合について決定方針を定めるものとする。

e. 報酬等の付与時期や条件に関する方針

現時点では固定報酬等のみであるため、毎月、一定額を支給するものとする。

f. 報酬等の決定の委任に関する事項

取締役会決議により個人別の内容についての決定を下記のとおり委任している

- ・委任を受ける者の当該株式会社における地位：取締役社長
- ・委任する権限の内容：取締役の個人別の報酬等の内容についての決定
- ・当該権限が適切に行使されるようにするため、業績動向及び世の中の状況等を勘案し、最終的には取締役社長に一任のうえ決定している。
- ・委任された内容の決定にあたっては、社外取締役を含む全取締役が出席する取締役会でその妥当性について確認している。

g. 上記のほか報酬等の決定に関する事項

当事業年度における取締役の個人別の報酬等の決定は、取締役会が代表取締役社長綾森豊彦に一任し、代表取締役社長綾森豊彦が、上記方針に基づき個々の取締役の報酬を決定しております。なお、当該方針に沿って取締役の個人別の報酬額が決定されていることから、取締役会は、その内容が決定方針に沿うものであり、相当であると判断しております。

h. 取締役の個人別の報酬等の決定に係る委任に関する事項

当事業年度における取締役の個人別の報酬等の決定を代表取締役社長綾森豊彦に委任した理由は、当社グループを取り巻く環境、当社グループの経営状況等を当社グループにおいて最も熟知し、総合的に役員員の報酬額を決定できる立場であると判断したためであります。

ロ. 取締役及び監査役に支払った報酬等の総額

(単位：千円)

| 区 分                | 支 給 人 員    | 支 給 額             |
|--------------------|------------|-------------------|
| 取 締 役<br>(うち社外取締役) | 5名<br>(1名) | 55,590<br>(600)   |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 4名<br>(3名) | 12,900<br>(3,600) |
| 合 計                | 9名         | 68,490            |

- (注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給料は含まれておりません。
2. 取締役の報酬限度額は、2001年6月28日開催の第60回定時株主総会において年額120,000千円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の取締役の員数は、7名であります。
3. 監査役の報酬限度額は、2009年6月25日開催の第68回定時株主総会において年額30,000千円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の監査役の員数は、3名であります。

④ 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等との兼任状況及び当社と当該他の法人等との関係

取締役小寺勉氏は、現在当社の大株主であり商品購入等の取引がある特定関係事業者であります株式会社トーハンの業務執行者であります。

監査役片岡義正氏は、片岡義正税理士事務所に所属する税理士であります。なお、当社と兼職先との間には特別な関係はありません。

監査役渡部弘之氏は、現在当社の大株主であり商品購入等の取引がある特定関係事業者であります株式会社トーハンの業務執行者であります。

ロ. 当事業年度における主な活動状況

|               | 活動状況                                                                                                                                                                     |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取 締 役 小 寺 勉   | 当事業年度に開催された取締役会19回のうち19回に出席いたしました。他社での長年にわたる経理業務や関係会社への出向等による管理部門全般における幅広い経験と知見から、取締役の職務執行に対する監督、助言および役員候補者の選定について関与、監督等を行っております。また、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。 |
| 監 査 役 片 岡 義 正 | 当事業年度に開催された取締役会19回のうち19回、監査役会4回のうち4回に出席いたしました。主に税理士としての専門的見地から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。                                                                      |
| 監 査 役 渡 部 弘 之 | 2023年6月23日就任以降に開催された取締役会15回のうち14回、監査役会3回のうち3回に出席いたしました。他社管理部門における経験と知見から適宜発言を行っております。                                                                                    |

⑤ 責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役及び各社外監査役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。

⑥ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要等

当社は、保険会社との間で、当社および当社の子会社の取締役及び監査役（当事業年度中に在任していた者を含む。）を被保険者とする、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、保険料は全額当社が負担しております。

当該保険契約の内容の概要は、被保険者が、その職務の執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約により保険会社が填補するものであり、1年毎に契約更新しております。

(4) 会計監査人の状況

① 名称 保森監査法人

② 報酬等の額

|                                     | 報酬等の額    |
|-------------------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 19,000千円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 19,000千円 |

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

(注) 2. 当社の重要な子会社のうち、JPT AMERICA, INC. は、当社の会計監査人以外の公認会計士または監査法人（外国におけるこれらの資格に相当する資格を有する者を含む。）の監査を受けております。

③ 会計監査人の報酬等の額について監査役会が同意をした理由

監査役会は、取締役、社内関係部署及び会計監査人より必要な資料の入手、報告を受けた上で、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況、報酬見積りの算定根拠について確認し、審議した結果、これらについて適切であると判断したため、会計監査人の報酬等の額に同意しております。

④ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

⑤ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

(5) 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制と、その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

① 当社及び当社グループ会社の取締役、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社及び当社グループ会社は、「私たちは文化事業を通じて、国際社会に貢献します」という経営理念のもとに、法令遵守を経営の基本と位置づけ、「法令違反防止規程」「行動規範」等によって高い倫理観を当社及び当社グループ会社の取締役と使用人に求めると共に事業管理部担当取締役がコンプライアンスに関する業務を兼任し、業務執行が法令及び定款に適合する体制を構築する。また、事業管理部長が中心となり、監査役との連携を図りながら業務全般の内部監査を実施する。通常の監査のほか特別に必要であると判断した場合は「内部監査規程」に基づき取締役社長の指示のもと内部監査を行う体制を整備する。各部署の関連法規についてはコンプライアンス確保のため使用人の教育、指導及び社内規定の適正な制定と運用を行う等、継続的研修等を通じ内容を周知徹底させ、監査役、顧問弁護士と迅速な連絡体制を整備する。

② 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報については「文書保存規程」に定めるところにより文書（紙または電磁的媒体）にし、保存及び管理する。取締役及び監査役は必要に応じてこれらの閲覧を常時行うことができる。また、グループ各社においても、これに準拠した体制を構築する。

③ 当社及び当社グループ会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスクの内容に応じて各事業部及び事業管理部の本部長等がそれぞれの役割に応じたリスクマネジメントを行い、損失の最小化を図る。また監査役、会計監査人との連携を図り、この観点からもリスクの低減、回避に努める。

- ④ 当社及び当社グループ会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

原則的には「取締役会規則」「職制規程」「会議処理及び運営規程」等の社内規則により効率的に職務の執行を行う。具体的には取締役会を毎月1回定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、営業状況やその他各業務全般の執行状況の把握を行い、取締役相互の職務の執行を監視するとともに取締役間の意思疎通を図る。取締役会決議事項以外の意思決定機関として、取締役及び監査役並びに部長以上の幹部社員で構成される経営会議を毎月1回以上開催し、経営に関する重要課題の討議決定を行うことで、業務の執行が効率的に行われるようにする。

- ⑤ 当社及び当社グループ会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

各子会社の担当取締役は社内規則（関係会社管理規程）に従い定期的に業績、財務状況の報告を求め内容の確認を行い必要に応じて本社の取締役会及び経営会議で報告する。また子会社の責任者を通じて使用人に対する教育指導を行う。さらに主要な子会社については会計監査人が定期的の実施している会計監査の結果を活用し業務の適正を確保する。

- ⑥ 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役の求めに応じて取締役会は監査役と協議し補助すべき使用人を他部署との兼務で必要な期間置くことができることとする。

- ⑦ 前号の使用人の当社取締役からの独立に関する事項

取締役会により指名された使用人に対する指揮権は監査役に移譲されたものとし、当該使用人の人事異動・人事考課等を行う場合はあらかじめ監査役と相談し、意見を求める。

- ⑧ 当社及び当社グループ会社の取締役および使用人が当社の監査役に報告をするための体制、その他当社監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制及び報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

監査役は、法令が定める権限を行使するとともに、内部監査部門及び会計監査人と連携して、監査役会が定める「監査役会規程」及び「監査役監査基準」に則り、取締役の職務執行の適正性について監査を実施する。監査役は当社の重要なすべての会議に出席することができるため、その場で報告を受け質問することができるように意見を述べることもできる。またすべての資料をいつでも閲覧することができるようになっており、必要に応じて調査を求めることができる。また取締役及び使用人は会社の目的以外の行為、その他法令・定款違反をするおそれがある事項及び会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事項を発見した場合は報告する。さらに役職員の監査役監査に対する理解を深め、監査役監査



の環境整備に努める。また、当社の監査役に報告を行った当社及びグループ子会社の取締役及び使用人が、報告をしたことを理由としていかなる不利な取扱いを受けないことを周知、徹底する。なお、監査役の職務執行に必要な費用は、当社が負担する。

⑨ 反社会的勢力を排除するための体制

当社は行動規範に「私達は社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対し利益供与を行いません。くわえて不当な要求には応じません。」と定め、基本的な考え方を示すとともに、周知を図る。また、反社会的勢力に対しては顧問弁護士、所轄警察署等の外部専門機関と連携する等、組織的に対応する。さらに、警視庁管内特殊暴力防止対策連合会に加盟し、関連情報の収集、最新情報の把握に努める。

⑩ 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社は上記に掲げた内部統制システムの整備をしておりますが、その基本方針に基づき、当事業年度におきましては、以下の具体的な取り組みを行っております。

- ・当社の取締役会は社外取締役を含む取締役5名と社外監査役を含む監査役3名で構成され、経営の基本方針、法令で定められた事項やその他経営に関する重要事項を十分に論議したうえで決定し、取締役の業務の執行状況の監督を行っております。当事業年度は、19回開催されております。
- ・監査役会は4回開催されております。監査役は取締役会、経営会議、その他重要な会議にも出席しております。また、定期的に代表取締役や会計監査人とも意見交換を行うことや、稟議書の確認を毎月行い、必要に応じて調査を行なうことで監査の実効性を高めております。
- ・内部監査室において、当社及び子会社における内部統制システムの運用状況について重要な不備がないかの確認を行っております。内部統制の実施状況は逐一社長及び監査役に報告し、業務執行部門の監査状況を把握しております。

(6) 会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。

# 連結貸借対照表

(2024年3月31日現在)

| 資 産 の 部              |                  | 負 債 の 部              |                  |
|----------------------|------------------|----------------------|------------------|
|                      | 千円               |                      | 千円               |
| <b>流 動 資 産</b>       | <b>5,723,464</b> | <b>流 動 負 債</b>       | <b>3,559,888</b> |
| 現金及び預金               | 1,479,379        | 買掛金                  | 1,896,769        |
| 売掛金                  | 2,420,454        | 短期借入金                | 730,100          |
| 商品及び製品               | 1,325,681        | リース債務                | 37,354           |
| 前渡金                  | 175,134          | 未払金                  | 158,082          |
| 返品資産                 | 269,737          | 未払法人税等               | 10,747           |
| その他の流動資産             | 53,865           | 契約負債                 | 322,420          |
| 貸倒引当金                | △789             | 返金負債                 | 325,685          |
|                      |                  | 賞与引当金                | 37,907           |
|                      |                  | その他の流動負債             | 40,821           |
| <b>固 定 資 産</b>       | <b>1,602,651</b> | <b>固 定 負 債</b>       | <b>1,302,584</b> |
| <b>有 形 固 定 資 産</b>   | <b>1,261,243</b> | 長期借入金                | 819,000          |
| 建物                   | 46,085           | リース債務                | 88,506           |
| 土地                   | 667,900          | 再評価に係る繰延税金負債         | 187,998          |
| リース資産                | 123,978          | 退職給付に係る負債            | 182,732          |
| 建設仮勘定                | 400,250          | その他の固定負債             | 24,347           |
| その他の有形固定資産           | 23,028           | <b>負 債 合 計</b>       | <b>4,862,473</b> |
| <b>無 形 固 定 資 産</b>   | <b>25,657</b>    | 純 資 産 の 部            |                  |
| その他の無形固定資産           | 25,657           | <b>株 主 資 本</b>       | <b>1,916,248</b> |
| <b>投 資 其 他 の 資 産</b> | <b>315,749</b>   | 資本金                  | 430,000          |
| 投資有価証券               | 109,475          | 資本剰余金                | 195,789          |
| 繰延税金資産               | 79,079           | 利益剰余金                | 1,296,630        |
| 退職給付に係る資産            | 55,379           | 自己株式                 | △6,171           |
| その他の投資               | 78,001           | その他の包括利益累計額          | 547,393          |
| 貸倒引当金                | △6,185           | その他有価証券評価差額金         | 10,425           |
|                      |                  | 土地再評価差額金             | 425,975          |
|                      |                  | 為替換算調整勘定             | 88,626           |
|                      |                  | 退職給付に係る調整累計額         | 22,366           |
| <b>資 産 合 計</b>       | <b>7,326,115</b> | <b>純 資 産 合 計</b>     | <b>2,463,642</b> |
|                      |                  | <b>負 債 純 資 産 合 計</b> | <b>7,326,115</b> |

# 連結損益計算書

(2023年4月1日から  
2024年3月31日まで)

| 科 目                          | 金 額    | 金 額       |
|------------------------------|--------|-----------|
|                              | 千円     | 千円        |
| 売 上 高                        |        | 8,554,238 |
| 売 上 原 価                      |        | 6,590,988 |
| 売 上 総 利 益                    |        | 1,963,249 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費          |        | 1,537,908 |
| 営 業 利 益                      |        | 425,340   |
| 営 業 外 収 益                    |        |           |
| 受 取 配 当 金                    | 1,158  |           |
| 為 替 差 益                      | 29,568 |           |
| そ の 他 の 営 業 外 収 益            | 5,735  | 36,462    |
| 営 業 外 費 用                    |        |           |
| 支 払 利 息                      | 9,546  |           |
| そ の 他 の 営 業 外 費 用            | 3,861  | 13,408    |
| 経 常 利 益                      |        | 448,394   |
| 特 別 利 益                      |        |           |
| 投 資 有 価 証 券 売 却 益            | 8,671  | 8,671     |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益        |        | 457,065   |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税      | 60,971 |           |
| 法 人 税 等 調 整 額                | 81,100 | 142,072   |
| 当 期 純 利 益                    |        | 314,993   |
| 親 会 社 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益 |        | 314,993   |

## 連結株主資本等変動計算書

（2023年4月1日から  
2024年3月31日まで）

（単位：千円）

|                                   | 株 主 資 本 |           |           |         |             |
|-----------------------------------|---------|-----------|-----------|---------|-------------|
|                                   | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 |
| 2023年4月1日 期首残高                    | 430,000 | 195,789   | 1,002,559 | △6,171  | 1,622,177   |
| 連結会計年度中の変動額                       |         |           |           |         |             |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益               |         |           | 314,993   |         | 314,993     |
| 剰余金の配当                            |         |           | △20,921   |         | △20,921     |
| 株主資本以外の<br>項目の連結会計年度中<br>の変動額（純額） |         |           |           |         |             |
| 連結会計年度中の変動額合計                     | －       | －         | 294,071   | －       | 294,071     |
| 2024年3月31日 期末残高                   | 430,000 | 195,789   | 1,296,630 | △6,171  | 1,916,248   |

|                                   | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 |              |              |                  |                                 | 純資産合計     |
|-----------------------------------|-----------------------|--------------|--------------|------------------|---------------------------------|-----------|
|                                   | その他有価証券<br>評価差額金      | 土地再評価<br>差額金 | 為替換算<br>調整勘定 | 退職給付に係る<br>調整累計額 | そ の 他 の<br>包 括 利 益<br>累 計 額 合 計 |           |
| 2023年4月1日 期首残高                    | 10,995                | 425,975      | 48,127       | 27,302           | 512,400                         | 2,134,578 |
| 連結会計年度中の変動額                       |                       |              |              |                  |                                 |           |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益               |                       |              |              |                  |                                 | 314,993   |
| 剰余金の配当                            |                       |              |              |                  |                                 | △20,921   |
| 株主資本以外の<br>項目の連結会計年度中<br>の変動額（純額） | △569                  | －            | 40,498       | △4,935           | 34,992                          | 34,992    |
| 連結会計年度中の変動額合計                     | △569                  | －            | 40,498       | △4,935           | 34,992                          | 329,064   |
| 2024年3月31日 期末残高                   | 10,425                | 425,975      | 88,626       | 22,366           | 547,393                         | 2,463,642 |

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

#### (1) 連結の範囲に関する事項

##### ① 連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

JPT AMERICA, INC.

JPT EUROPE LTD.

HAKUBUNDO, INC.

##### ② 非連結子会社の数 1社

非連結子会社の名称

JPT FRANCE S. A. R. L.

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模であり総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも僅少で連結計算書類に重要な影響を及ぼしておりません。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

##### ① 持分法適用の関連会社

該当事項はありません。

##### ② 持分法を適用していない非連結子会社（JPT FRANCE S. A. R. L.）は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日はすべて12月31日であります。連結計算書類の作成にあたっては、各社の同日現在の計算書類を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### (4) 会計方針に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### (イ) 棚卸資産

主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下の方法）

###### (ロ) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

主として移動平均法による原価法を採用しております。

## ② 重要な減価償却資産の減価償却方法

### (イ) 有形固定資産

定額法によっております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15年

ただし、取得価額100千円以上200千円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

### (ロ) 無形固定資産

定額法によっております。ただし、自社利用によるソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

### (ハ) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## ③ 重要な引当金の計上基準

### (イ) 貸倒引当金

売掛金、貸付金等当連結会計年度末に有する債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

### (ロ) 賞与引当金

従業員に対する賞与の引当額として当連結会計年度に負担すべき翌期支給見込額を計上しております。

ただし、在外連結子会社は賞与支給の定めがないので、引当金の計上は行っておりません。

## ④ 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループの顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

### ① 出版物・雑貨輸出事業

出版物・雑貨輸出事業については、主に出版物、雑貨及び音楽ソフトを販売しております。このような輸出版売については貨物に対する支配が船積時点で買手に移転する場合には船積基準により収益を認識しております。また、仕向地持込渡条件の取引については着荷基準で収益を認識しております。

### ② 洋書事業・メディア事業

洋書事業及びメディア事業については、主に出版物、音楽ソフト及び雑貨を販売しております。これらの商品の国内販売については、出荷時から商品の支配が顧客に移転される時までの期間が短期間であることから、出荷時に収益を認識しております。また、一部の取引について、顧客への財又はサービスの提供における役割（本人又は代理人）を判断した結果、代理人取引と判断したものについては純額で収益を認識しております。

### ③ 不動産賃貸事業

不動産賃貸事業における賃貸収益については、不動産賃貸契約等に基づき、その貸付期間に対応して収益を認識しております。

⑤ 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

⑥ その他連結計算書類作成のための重要な事項

退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定率法により按分した額をそれぞれ発生した翌連結会計年度から費用処理しております。過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により費用処理しております。

## 2. 会計上の見積りに関する注記

### (1) 棚卸資産の評価

① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

|               |             |
|---------------|-------------|
| 商品及び製品        | 1,325,681千円 |
| 棚卸資産評価損（売上原価） | 2,743千円     |

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、棚卸資産の連結貸借対照表価額は移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）により算定しており、取得原価と連結会計年度末における正味売却価額のいずれか低い方の金額で評価しております。

また、営業循環過程から外れた棚卸資産については、収益性の低下の事実を反映するように、一定の販売期間を超える場合に定期的に帳簿価額を切り下げる方法を採用しております。加えて、直近1年間の販売実績および市場の趨勢を踏まえ、個別に収益性の低下について判断し、処分見込価額まで切り下げる方法により評価を行っております。

今後の市場環境の変化により、保有する棚卸資産の収益性が予測より低下した場合には、棚卸資産の評価に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 返品資産及び返金負債

① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

|      |           |
|------|-----------|
| 返品資産 | 269,737千円 |
| 返金負債 | 325,685千円 |

② 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

#### (イ) 算出方法

当社グループの英語教科書等の一定期間の売上高に対する返品見込額を売上変動対価の見積額としております。返金負債は、将来予想される返品について顧客への返金が見込まれる金額に関するものであり、当該見込額については収益からその金額を控除しております。返金負債の決済時に顧客から商品を回収する権利として認識した資産を返品資産に計上しており、当該見込額については売上原価から控除しております。

(ロ) 主要な仮定

返金負債は、決算日前の一定期間の販売実績に予想返品率を乗じることにより算定しております。予想返品率については、同じセグメントに属する出版物及び音楽ソフト等の返品率や市場需要の傾向は過去実績と同水準であるとの仮定に基づき、セグメント毎に算定した直近1年間の実績返品率を用いております。返品資産は、返金負債に原価率を乗じて算定しております。

(ハ) 翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

英語教科書等の返品が発生する時期及び金額は、将来の不確実な経済状況の変動等により影響を受ける可能性があり、実際に発生した時期及び金額が見積りと異なった場合、翌連結会計年度以降の連結計算書類において認識する金額に重要な影響を与える可能性があります。

### 3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

① 担保に供している資産

|        |           |
|--------|-----------|
| 土地     | 667,900千円 |
| 投資有価証券 | 50,467千円  |
| 計      | 718,367千円 |

② 担保に係る債務

|                |             |
|----------------|-------------|
| 短期借入金          | 600,000千円   |
| 一年以内返済予定の長期借入金 | 12,500千円    |
| 長期借入金          | 675,000千円   |
| 計              | 1,287,500千円 |

(2) 有形固定資産の減価償却累計額

137,622千円

(3) 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成13年3月31日公布法律第19号）に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に、税効果相当額（再評価に係る繰延税金負債）を負債の部に、それぞれ計上しております。

(イ) 再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第5項に定める「不動産鑑定士による鑑定評価による方法」により算出しております。

(ロ) 再評価を行った年月日 2002年3月31日

### 4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首の株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末の株式数 |
|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 普通株式  | 700,000株      | 一株           | 一株           | 700,000株     |

(2) 自己株式の数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首の株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末の株式数 |
|-------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 普通株式  | 2,603株        | 一株           | 一株           | 2,603株       |



### (3) 剰余金の配当に関する事項

#### (イ) 配当金支払い額

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額   | 1株当たり配当金 | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|----------|----------|------------|------------|
| 2023年6月23日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 20,921千円 | 30円      | 2023年3月31日 | 2023年6月26日 |

(ロ) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

| 決議予定                 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額   | 1株当たり配当金 | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|-------|----------|----------|------------|------------|
| 2024年6月25日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 20,921千円 | 30円      | 2024年3月31日 | 2024年6月26日 |

#### (4) 当連結会計年度末日における新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

## 5. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。一時的な余資は短期的な預金等に限定し、また、運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、一部の営業債権について先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが短期間の支払期日であります。また、外貨建ての営業債務については、為替の変動リスクに晒されておりますが、一部の債務について先物為替予約を利用してヘッジしております。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資、運転資金に係る資金調達を目的としたものであり、金利の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引等であります。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理の社内管理規程に基づき、営業債権及び貸付金について、営業部門並びに管理部門が取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の管理規程に準じて同様の管理を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況を把握しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内規程に従い、担当部署が決裁担当者の承認を得て行っております。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき資金計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2024年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等（連結貸借対照表計上額7,407千円）は、「その他有価証券」には含めておりません。また、現金は注記を省略しており、預金、受取手形、売掛金及び契約資産、支払手形及び買掛金、短期借入金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：千円)

|          | 連結貸借対照表計上額 | 時価      | 差額      |
|----------|------------|---------|---------|
| ① 投資有価証券 |            |         |         |
| その他有価証券  | 102,067    | 102,067 | —       |
| 資産計      | 102,067    | 102,067 | —       |
| ② 長期借入金  | 899,100    | 840,896 | △58,203 |
| ③ リース債務  | 125,860    | 124,579 | △1,281  |
| 負債計      | 1,024,960  | 965,476 | △59,484 |

(注) 1. 長期借入金は、1年以内長期借入金を含んでおります。

2. リース債務は、流動負債及び固定負債にそれぞれ計上されているリース債務の合計になります。

(3) 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価。

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価。

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価。

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

① 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

(単位：千円)

| 区分                      | 時価      |      |      |         |
|-------------------------|---------|------|------|---------|
|                         | レベル1    | レベル2 | レベル3 | 合計      |
| 投資有価証券<br>その他有価証券<br>株式 | 102,067 | —    | —    | 102,067 |
| 資産計                     | 102,067 | —    | —    | 102,067 |

② 時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：千円)

| 区分    | 時価   |         |      |         |
|-------|------|---------|------|---------|
|       | レベル1 | レベル2    | レベル3 | 合計      |
| 長期借入金 | —    | 840,896 | —    | 840,896 |
| リース債務 | —    | 124,579 | —    | 124,579 |
| 負債計   | —    | 965,476 | —    | 965,476 |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

(1) 投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

(2) 長期借入金及びリース債務

長期借入金及びリース債務については、一定の期間ごとに区分した当該長期借入金又はリース債務の元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて現在価値を算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## 6. 収益認識に関する注記

### (1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

主要な財又はサービス別に分解した収益の情報は以下のとおりであります。

(単位：千円)

|                   | 報告セグメント       |           |            |             |             | 合計        |
|-------------------|---------------|-----------|------------|-------------|-------------|-----------|
|                   | 出版物雑貨<br>輸出事業 | 洋書事業      | メディア事<br>業 | 不動産賃貸<br>事業 | 海外子会社<br>事業 |           |
| 日本                | 153,880       | 2,979,914 | 2,328,263  | —           | —           | 5,462,058 |
| 米国                | 743,162       | —         | —          | —           | 1,313,697   | 2,056,859 |
| その他               | 920,104       | —         | —          | —           | 115,216     | 1,035,320 |
| 顧客との契約から<br>生じる収益 | 1,817,146     | 2,979,914 | 2,328,263  | —           | 1,428,913   | 8,554,238 |
| 外部顧客への売上高         | 1,817,146     | 2,979,914 | 2,328,263  | —           | 1,428,913   | 8,554,238 |

### (2) 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項 (4) 会計方針に関する事項④重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

### (3) 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

#### ・ 契約負債の残高

契約負債の残高は連結貸借対照表に記載のとおりであります。契約負債は、主に顧客との契約について、顧客から受け取った前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

#### ・ 返金負債の残高

返金負債の残高は連結貸借対照表に記載のとおりであります。返金負債は、将来予想される返品について顧客への返金が見込まれる金額に関するものであります。なお、当該見込額については収益からその金額を控除しております。

## 7. 1株当たり情報に関する注記

- |              |           |
|--------------|-----------|
| ① 1株当たり純資産額  | 3,532円63銭 |
| ② 1株当たり当期純利益 | 451円67銭   |

## 8. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 9. その他の注記

該当事項はありません。

# 貸借対照表

(2024年3月31日現在)

| 資 産 の 部         | 千円               | 負 債 の 部              | 千円               |
|-----------------|------------------|----------------------|------------------|
| <b>流 動 資 産</b>  | <b>5,140,061</b> | <b>流 動 負 債</b>       | <b>3,526,650</b> |
| 現金及び預金          | 1,150,116        | 買掛金                  | 1,915,145        |
| 売掛金             | 2,437,679        | 短期借入金                | 650,000          |
| 商品及び製品          | 1,083,077        | 一年以内返済予定の長期借入金       | 80,100           |
| 前渡金             | 175,134          | リース債務                | 17,755           |
| 返品資産            | 269,737          | 未払金                  | 139,348          |
| 前払費用            | 15,905           | 未払費用                 | 21,874           |
| その他の流動資産        | 8,410            | 未払法人税等               | 9,842            |
| 貸倒引当金           | △0               | 契約負債                 | 314,389          |
| <b>固 定 資 産</b>  | <b>1,776,186</b> | 返金負債                 | 323,005          |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>1,211,435</b> | 賞与引当金                | 37,907           |
| 建物              | 34,473           | 預り金                  | 10,135           |
| 工具、器具及び備品       | 16,126           | その他の流動負債             | 7,147            |
| 土地              | 667,900          | <b>固 定 負 債</b>       | <b>1,284,286</b> |
| リース資産           | 92,684           | 長期借入金                | 819,000          |
| 建設仮勘定           | 400,250          | リース債務                | 76,035           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>25,657</b>    | 再評価に係る繰延税金負債         | 187,998          |
| ソフトウェア          | 25,657           | 退職給付引当金              | 177,342          |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>539,093</b>   | その他の固定負債             | 23,909           |
| 投資有価証券          | 106,717          | <b>負 債 合 計</b>       | <b>4,810,937</b> |
| 関係会社株式          | 268,792          | 純 資 産 の 部            |                  |
| 出資金             | 510              | <b>株 主 資 本</b>       | <b>1,668,909</b> |
| 繰延税金資産          | 82,025           | 資本金                  | 430,000          |
| その他の投資          | 87,232           | 資本剰余金                | 195,789          |
| 貸倒引当金           | △6,185           | 資本準備金                | 195,789          |
| <b>資 産 合 計</b>  | <b>6,916,248</b> | <b>利 益 剰 余 金</b>     | <b>1,049,291</b> |
|                 |                  | 利益準備金                | 9,210            |
|                 |                  | その他利益剰余金             | 1,040,081        |
|                 |                  | 繰越利益剰余金              | 1,040,081        |
|                 |                  | <b>自 己 株 式</b>       | <b>△6,171</b>    |
|                 |                  | 評価・換算差額等             | 436,400          |
|                 |                  | その他有価証券評価差額金         | 10,425           |
|                 |                  | 土地再評価差額金             | 425,975          |
|                 |                  | <b>純 資 産 合 計</b>     | <b>2,105,310</b> |
|                 |                  | <b>負 債 純 資 産 合 計</b> | <b>6,916,248</b> |

# 損 益 計 算 書

（2023年4月1日から  
2024年3月31日まで）

| 科 目                   | 金 額    | 金 額       |
|-----------------------|--------|-----------|
|                       | 千円     | 千円        |
| 売 上 高                 |        | 7,692,846 |
| 売 上 原 価               |        | 6,274,366 |
| 売 上 総 利 益             |        | 1,418,480 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費   |        | 1,125,482 |
| 営 業 利 益               |        | 292,998   |
| 営 業 外 収 益             |        |           |
| 受 取 利 息               | 1      |           |
| 受 取 配 当 金             | 11,780 |           |
| 貸 倒 引 当 金 戻 入 益       | 1,339  |           |
| 為 替 差 益               | 34,084 |           |
| そ の 他 の 営 業 外 収 益     | 3,467  | 50,673    |
| 営 業 外 費 用             |        |           |
| 支 払 利 息               | 9,526  |           |
| そ の 他 の 営 業 外 費 用     | 3,861  | 13,387    |
| 経 常 利 益               |        | 330,283   |
| 特 別 利 益               |        |           |
| 投 資 有 価 証 券 売 却 益     | 8,671  | 8,671     |
| 税 引 前 当 期 純 利 益       |        | 338,954   |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | 20,337 |           |
| 法 人 税 等 調 整 額         | 82,061 | 102,399   |
| 当 期 純 利 益             |        | 236,555   |

## 株主資本等変動計算書

(2023年4月1日から  
2024年3月31日まで)

(単位：千円)

|                                     | 株 主 資 本 |         |       |                     |           |        |           |
|-------------------------------------|---------|---------|-------|---------------------|-----------|--------|-----------|
|                                     | 資本金     | 資本剰余金   | 利益剰余金 |                     |           | 自己株式   | 株主資本合計    |
|                                     |         | 資本準備金   | 利益準備金 | その他利益剰余金<br>繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計   |        |           |
| 2023年4月1日期首残高                       | 430,000 | 195,789 | 9,210 | 824,448             | 833,658   | △6,171 | 1,453,276 |
| 事業年度中の変動額                           |         |         |       |                     |           |        |           |
| 当期純利益                               |         |         |       | 236,555             | 236,555   |        | 236,555   |
| 剰余金の配当                              |         |         |       | △20,921             | △20,921   |        | △20,921   |
| 株主資本以外<br>の項目の事業<br>年度中の変動<br>額(純額) |         |         |       |                     |           |        |           |
| 事業年度中の<br>変動額合計                     | -       | -       | -     | 215,633             | 215,633   | -      | 215,633   |
| 2024年3月31日<br>期末残高                  | 430,000 | 195,789 | 9,210 | 1,040,081           | 1,049,291 | △6,171 | 1,668,909 |

|                                     | 評価・換算差額等         |              |                | 純資産合計     |
|-------------------------------------|------------------|--------------|----------------|-----------|
|                                     | その他有価証券<br>評価差額金 | 土地再評価<br>差額金 | 評価・換算<br>差額等合計 |           |
| 2023年4月1日期首残高                       | 10,995           | 425,975      | 436,970        | 1,890,247 |
| 事業年度中の<br>変動額                       |                  |              |                |           |
| 当期純利益                               |                  |              |                | 236,555   |
| 剰余金の配当                              |                  |              |                | △20,921   |
| 株主資本以外<br>の項目の事業<br>年度中の変動<br>額(純額) | △569             | -            | △569           | △569      |
| 事業年度中の<br>変動額合計                     | △569             | -            | △569           | 215,063   |
| 2024年3月31日<br>期末残高                  | 10,425           | 425,975      | 436,400        | 2,105,310 |

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

##### ① 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

##### ② その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

主として移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下の方法）

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産

定額法によっております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物15年

ただし、取得価額100千円以上200千円未満の少額減価償却資産については、3年間の均等償却をしております。

##### ② 無形固定資産

定額法によっております。ただし、自社利用によるソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

##### ③ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ① 貸倒引当金

売掛金、貸付金等期末現在に有する債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### ② 賞与引当金

従業員に対する賞与の引当額として当事業年度に負担すべき翌期支給見込額を計上しております。

##### ③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定率法により発生翌事業年度から費用処理することとしております。過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により発生した事業年度から費用処理することとしております。



(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

① 出版物・雑貨輸出事業

出版物・雑貨輸出事業については、主に出版物、雑貨及び音楽ソフトを販売しております。このような輸出販売については貨物に対する支配が船積時点で買手に移転する場合には船積基準により収益を認識しております。また、仕向地持込渡条件の取引については着荷基準で収益を認識しております。

② 洋書事業・メディア事業

洋書事業及びメディア事業については、主に出版物、音楽ソフト及び雑貨を販売しております。これらの商品の国内販売については、出荷時から商品の支配が顧客に移転される時までの期間が短期間であることから、出荷時に収益を認識しております。また、一部の取引について、顧客への財又はサービスの提供における役割（本人又は代理人）を判断した結果、代理人取引と判断したものについては純額で収益を認識しております。

③ 不動産賃貸事業

不動産賃貸事業における賃貸収益については、不動産賃貸契約等のに基づき、その貸付期間に対応して収益を認識しております。

(6) その他計算書類作成のための基本となる事項

退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理と異なっております。

## 2. 会計上の見積りに関する注記

返品資産及び返金負債

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

|      |           |
|------|-----------|
| 返品資産 | 269,737千円 |
| 返金負債 | 323,005千円 |

(2) 会計上の見積りの内容に関する理解を資する情報

連結計算書類「連結注記表 2. 会計上の見積りに関する注記」の内容と同一であります。

### 3. 貸借対照表に関する注記

#### (1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

|                |             |
|----------------|-------------|
| ① 担保に供している資産   |             |
| 土    地         | 667,900千円   |
| 投資有価証券         | 50,467千円    |
| 計              | 718,367千円   |
| ② 担保に係る債務      |             |
| 短期借入金          | 600,000千円   |
| 一年以内返済予定の長期借入金 | 12,500千円    |
| 長期借入金          | 675,000千円   |
| 計              | 1,287,500千円 |

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 57,815千円

(3) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

|          |           |
|----------|-----------|
| ① 短期金銭債権 | 362,460千円 |
| ② 短期金銭債務 | 79,369千円  |

(4) 取締役、監査役に対する金銭債権及び金銭債務は次のとおりであります。

|         |          |
|---------|----------|
| 金 銭 債 務 | 15,280千円 |
|---------|----------|

#### (5) 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成13年3月31日公布法律第19号）に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に、税効果相当額（再評価に係る繰延税金負債）を負債の部に、それぞれ計上しております。

##### (イ) 再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第5項に定める「不動産鑑定士による鑑定評価による方法」により算出しております。

(ロ) 再評価を行った年月日 2002年3月31日

### 4. 損益計算書に関する注記

#### (1) 関係会社との取引高

|              |           |
|--------------|-----------|
| ① 売上高        | 794,260千円 |
| ② 仕入高等       | 639,676千円 |
| ③ 営業取引以外の取引高 | 10,876千円  |

### 5. 株主資本等変動計算書に関する注記

#### 自己株式の数に関する事項

| 株 式 の 種 類 | 当事業年度期首の株式数 | 当事業年度増加株式数 | 当事業年度減少株式数 | 当事業年度末の株式数 |
|-----------|-------------|------------|------------|------------|
| 普 通 株 式   | 2,603株      | 一株         | 一株         | 2,603株     |

## 6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| 繰延税金資産          |           |
| 貸倒引当金           | 1,894千円   |
| 未払事業税           | 2,109千円   |
| 棚卸資産評価損         | 858千円     |
| 賞与引当金           | 11,607千円  |
| 売掛金・返品資産・返金負債   | 20,937千円  |
| 子会社株式評価損        | 13,990千円  |
| 退職給付引当金         | 48,866千円  |
| 役員退職慰労引当金       | 4,678千円   |
| その他             | 2,478千円   |
| 繰延税金資産小計        | 107,421千円 |
| 評価性引当金          | △20,794千円 |
| 繰延税金資産合計        | 86,627千円  |
| 繰延税金負債          |           |
| その他有価証券評価差額金（益） | 4,601千円   |
| 繰延税金負債合計        | 4,601千円   |
| 繰延税金資産の純額       | 82,025千円  |

## 7. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

| 種類       | 会社等の名称   | 資本金又は出資金(百万円) | 事業の内容又は職業                                                                                                                                                                                                                     | 議決権等の所有(被所有)割合(%)         | 関係内容  |         | 取引の内容   | 取引金額(千円)  | 科目         | 期末残高(千円)          |
|----------|----------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-------|---------|---------|-----------|------------|-------------------|
|          |          |               |                                                                                                                                                                                                                               |                           | 役員兼任等 | 事業上の関係  |         |           |            |                   |
| その他の関係会社 | 株式会社トーハン | 4,500         | ① 書籍、雑誌、教科書、その他の出版物の取次販売、ならびにこれに関する物流業務<br>② 音楽・映像/CD、ゲームソフト、玩具、雑貨類、事務用品、教育用品、音楽用品、視聴覚機器、什器備品の取次販売、ならびにこれに関する物流業務<br>③ SNSシステムの開発、販売および各種情報提供業務<br>④ 出版物の輸出入、版権取引仲介業務<br>⑤ カヌ、フットボール、マネジメンツの運営<br>⑥ 不動産の賃貸借・管理運営<br>⑦ その他新規事業 | (被所有)<br>直接 21.50<br>間接 — | なし    | 当社商品の販売 | 当社商品の販売 | 223,119   | 売掛金        | 185,262           |
|          |          |               |                                                                                                                                                                                                                               |                           |       | 同社商品の購入 | 同社商品の購入 | 639,609   | 買掛金<br>未払金 | 78,523<br>846     |
| 法人主要株主   | 丸善株式会社   | 100           | 出版物・文具、OA機器等の卸・小売業                                                                                                                                                                                                            | (被所有)<br>直接 10.03<br>間接 — | なし    | 当社商品の販売 | 当社商品の販売 | 1,076,363 | 売掛金<br>前受金 | 905,448<br>78,210 |
|          |          |               |                                                                                                                                                                                                                               |                           |       | 同社商品の購入 | 同社商品の購入 | 15,293    | 買掛金        | 7,657             |

- (注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等、商品の販売及び購入は全て一般の取引条件と同様であります。  
2. 議決権等の所有(被所有)割合は、小数点第2位未満を切り捨てて表示しております。  
3. 議決権等の所有(被所有)割合は、自己株式(2,603株)を控除して計算しております。

## (2) 子会社及び関連会社等

| 種 類 | 会社等の名称               | 資本金又は出資金<br>(百万円) | 事 業 の 内 容<br>又は 職 業    | 議 決 権 等<br>の 所 有<br>(被所有)<br>割合 (%) | 関 係 内 容        |                | 取引の内容                    | 取引金額<br>(千円) | 科 目  | 期末残高<br>(千円) |
|-----|----------------------|-------------------|------------------------|-------------------------------------|----------------|----------------|--------------------------|--------------|------|--------------|
|     |                      |                   |                        |                                     | 役員<br>の<br>兼任等 | 事業上<br>の<br>関係 |                          |              |      |              |
| 子会社 | JPT AMERICA,<br>INC. | US\$<br>1,250,000 | 出版物・文具、<br>雑貨等の卸<br>売業 | (所有)<br>直接 100                      | あり             | 当社商品<br>の販売    | 当社商品<br>の販売<br>受取配当<br>金 | 431,016      | 売掛金  | 65,995       |
|     |                      |                   |                        |                                     |                | 同社商品<br>の購入    | 同社商品<br>の購入              | 10,622       | 未収入金 | 187          |
|     |                      |                   |                        |                                     |                |                |                          | 76           | 立替金  | 29           |
| 子会社 | HAKUBUNDO,<br>INC.   | US\$<br>253,350   | 出版物・文具、<br>雑貨等の卸<br>売業 | (所有)<br>直接 100                      | あり             | 当社商品<br>の販売    | 当社商品<br>の販売              | 72,450       | 未払金  | —            |
|     |                      |                   |                        |                                     |                |                |                          |              | 売掛金  | 71,773       |

(注) 商品の販売及び購入価格その他の取引条件は、市場実勢価格および一般の取引条件を勘案し、協議の上、決定しております。

## 8. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 3,018円81銭  
(2) 1株当たり当期純利益 339円20銭

## 9. 収益認識に関する注記

連結注記表「6. 収益認識に関する注記」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

## 10. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 11. 連結配当規制適用会社に関する注記

該当事項はありません。

## 12. その他の注記

該当事項はありません。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2024年5月21日

日本出版貿易株式会社

取締役会 御中

保森監査法人  
東京都千代田区

代表社員 公認会計士 笹部 秀樹  
業務執行社員  
代表社員 公認会計士 荒川 竜太  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、日本出版貿易株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本出版貿易株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した

内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2024年5月21日

日本出版貿易株式会社  
取締役会 御中

保森監査法人  
東京都千代田区

代表社員 公認会計士 笹部 秀樹  
業務執行社員  
代表社員 公認会計士 荒川 竜太  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、日本出版貿易株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第83期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上



## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2023年4月1日から2024年3月31日までの第83期事業年度における取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。

- ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
- ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、財務報告に係る内部統制を含め、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 保森監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 保森監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2024年5月24日

日本出版貿易株式会社 監査役会

常勤監査役 狩野 泰直 (印)

社外監査役 片岡 義正 (印)

社外監査役 渡部 弘之 (印)

以上

# 株主総会参考書類

## 第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要施策と位置づけており、業績、配当性向並びに企業体質の強化と今後の事業展開に必要な内部留保等を考慮し、株主の皆様に対する利益還元を行うことを基本方針としながら、今後の事業展開等を勘案して、以下のとおり配当したいと存じます。

### 期末配当に関する事項

- (1) 配当財産の種類  
金銭
- (2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき、金30円  
配当総額20,921,910円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日  
2024年6月26日

## 第2号議案 取締役5名選任の件

取締役全員（5名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役5名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者<br>番号 | ふ<br>氏<br>り<br>が<br>な<br>名<br>(生年月日)    | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                              | 所有する<br>当社株式数 |
|-----------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 1         | あや もり とよ ひこ<br>綾 森 豊 彦<br>(1961年3月21日)  | 1983年4月 株式会社鳥羽洋行 入社<br>1986年3月 日神不動産株式会社 入社<br>1998年4月 当社ニューメディア二部長<br>2003年11月 当社代表取締役常務<br>2004年3月 当社代表取締役社長<br>2007年6月 当社代表取締役会長<br>2008年4月 当社代表取締役常務<br>2013年4月 当社代表取締役社長、現在に至る<br>2013年6月 JPT EUROPE LTD. 代表取締役、現在に至る<br>2013年6月 HAKUBUNDO, INC. 代表取締役、現在に至る<br>2020年1月 JPT AMERICA, INC. 代表取締役、現在に至る | 2,000株        |
| 2         | こん どう りゅう いち<br>近 藤 隆 一<br>(1959年9月14日) | 1983年4月 東京出版販売株式会社（現：株式会社トーハン）入社<br>2000年6月 株式会社トーハン総合企画部マネージャー<br>2008年4月 TMH（トーハンメディアホールディングス）ゼネラルマネージャー<br>2009年6月 株式会社トーハン取締役総務人事部長<br>2010年6月 株式会社トーハン・メディア・ウェイブ取締役<br>2010年6月 当社常務取締役、現在に至る                                                                                                          | 3,900株        |

| 候補者番号                                                                                                                                                                                                                                                | 氏名<br>(生年月日)                   | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                              | 所有する<br>当社株式数 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 3                                                                                                                                                                                                                                                    | まつなみこうじ<br>松並恒次<br>(1970年2月1日) | 1998年4月 当社ニューメディア二部仕入課長<br>2001年4月 当社メディア部次長兼メディア部仕入課長<br>2010年4月 当社仕入販促部長<br>2011年6月 当社取締役商品統括部長<br>2012年7月 当社取締役仕入事業部担当<br>2020年4月 当社取締役商品本部担当、現在に至る                                                                     | 3,800株        |
| 4                                                                                                                                                                                                                                                    | はやしやすひこ<br>林恭彦<br>(1970年8月11日) | 2000年8月 当社メディア部営業課長<br>2004年4月 当社国内営業二部次長兼国内営業二部営業一課課長兼国内営業二部営業三課課長<br>2010年4月 当社国内営業二部長<br>2011年6月 当社取締役営業推進部長<br>2012年7月 当社取締役国内事業部担当<br>2020年1月 JPT FRANCE S. A. R. L. 代表取締役、現在に至る<br>2020年4月 当社取締役営業本部担当、現在に至る         | 3,700株        |
| 5                                                                                                                                                                                                                                                    | こでらつとむ<br>小寺勉<br>(1971年12月8日)  | 1994年4月 株式会社トーハン入社<br>2006年5月 ティー・アンド・ジー出向<br>2012年4月 株式会社トーハン経営戦略部マネージャー<br>2016年6月 株式会社トーハン経理部長<br>2018年6月 株式会社トーハン執行役員経理部長<br>2021年6月 当社社外取締役、現在に至る<br>2021年6月 株式会社トーハン執行役員取引部長<br>2023年4月 株式会社トーハン執行役員経営管理本部経理部長、現在に至る | 0株            |
| <p><b>【選任理由及び期待される役割の概要】</b></p> <p>小寺勉氏を社外取締役候補者とした理由は、同氏は長年にわたる経理業務や関係会社への出向を通じ、財務及び会計の深い理解に加えて管理部門全般における幅広い知見を有しており、当該知見を活かして、特に財務及び会計をはじめ当社の経営全般について専門的な観点から取締役の職務執行に対する監督、助言をいただくこと、および、客観的・中立的な立場で当社の役員候補者の選定について関与、監督等いただくことを期待したためであります。</p> |                                |                                                                                                                                                                                                                            |               |

- (注) 1. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 候補者小寺勉氏は当社の大株主であり商品購入等の取引がある特定関係事業者であります。株式会社トーハンにおける現在又は過去10年間の地位及び担当は、上記「略歴、当社における地位及び担当(重要な兼職の状況)」欄に記載のとおりであります。また、小寺勉氏は、株式会社トーハンより過去2年間に使用人としての給与等を受けており、今後も受ける予定であります。
3. 小寺勉氏は、社外取締役候補者であります。
4. 小寺勉氏は、当社の取締役に就任して3年が経過しております。
5. 小寺勉氏の再任が承認された場合は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を継続する予定であります。なお、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項に定める最低責任限度額といたします。
6. 当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、2. 会社の現況 (3) 会社役員状況 ⑥役員等賠償責任保険契約の内容の概要等に記載のとおりです。取締役候補者の選任が承認されますと、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。
- また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

### 第3号議案 監査役2名選任の件

監査役3名のうち片岡義正、狩野泰直の2氏が、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、監査役2名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号                                                                                                                                                                                             | ふりがな<br>(生年月日)                          | 略歴、当社における地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                        | 所有する<br>当社株式数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 1                                                                                                                                                                                                 | か のう やす なお<br>狩野泰直<br>(1963年11月21日)     | 2004年3月 当社 経理部入社<br>2018年6月 当社 経理部長代理<br>2020年6月 当社 常勤監査役、現在に至る                                  | 400株          |
| 2                                                                                                                                                                                                 | ※<br>やま もと み ゆき<br>山本美雪<br>(1962年4月27日) | 1995年4月 東京地方検察庁 検事任官<br>2010年3月 福岡地方検察庁 検事退官<br>2010年4月 埼玉弁護士会 弁護士登録<br>2015年8月 みゆき法律事務所開設、現在に至る | 0株            |
| <p><b>【社外監査役候補者とした理由】</b><br/>山本美雪氏は、検事・弁護士としての豊富な経験と高度な専門知識を有しており、適切な職務執行を期待できることから社外監査役とすることが適当と判断したものであります。<br/>なお、同氏は過去に会社経営に関与したことはありませんが、上記の理由により、社外監査役として職務を適切に遂行していただけるものとして判断しております。</p> |                                         |                                                                                                  |               |

- (注) 1. ※印は、新任候補者であります。
2. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
3. 山本美雪氏は、社外監査役候補者であります。
4. 山本美雪氏は、東京証券取引所の定める独立役員の要件を満たしており、監査役に選任された場合は、当社は同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として新たに届け出る予定であります。
5. 山本美雪氏が監査役に選任された場合は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を継続する予定であり、当該契約に基づく賠償責任限定額は法令が規定する最低責任限度額であります。
6. 当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当該保険契約の内容の概要は、2. 会社の現況 (3) 会社役員の状況 ⑥役員等賠償責任保険契約の内容の概要等に記載のとおりです。監査役候補者の選任が承認されますと、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。
- また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

以上

# 会場ご案内図



神保町（東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄新宿線・三田線）A5出口より徒歩2分